



レジャー白書短信 第7号

子供が多いほどスキー・遊園地・釣りに参加

—時間・費用等の負担が比較的大きい種目の子供の人数別活動実績—

公益財団法人 日本生産性本部

公益財団法人日本生産性本部 余暇創研は、子育て世代の20～40代における子供の人数別の余暇活動の実態について分析を行い、「レジャー白書短信第7号」としてまとめた。本短信では、余暇活動の中でも比較的時間や費用などの負担が大きい種目（「レジャー白書2015」P143掲載「宿泊を伴う旅行実施率上位種目」）に着目し、それらの参加率や年間活動回数、年間費用（会費等）が子供の人数の多寡によってどのように変わるのかを確認している。結果として、子供の人数と余暇活動の関係が種目によって大きく異なることが明らかになった。

1. 子供3人以上で「家族と過ごすため」の選択率は5割にとどまる（p2 参照）

はじめに「自由時間のあり方」について尋ねた結果を確認する。20～40代において子供がいる人の「家族と過ごすため」の選択率は6割で、子供がいない人（約25%）を大きく上回るが、子供の人数別にみると、「3人以上」でその割合は5割にとどまっている。その半面「3人以上」は「趣味やスポーツを楽しむため」の選択率で「1人」や「2人」を5ポイント超上回っている。

2. 子供の人数が多いほど参加率が高まる種目は「スキー」「遊園地」「釣り」（p3 参照）

次に、時間・費用等の負担が比較的大きい種目についてみると、参加率は、全体的に子供が多いほど低下する傾向があるが、「スキー」、「遊園地」、「釣り」はその逆の傾向を示している。ただ、その反面、「遊園地」では子供が多いほど潜在需要が低下する傾向が表れている。

3. 「遊園地」「動物園等」「外食」の活動回数は子供が多いほど減少（p4 参照）

続いて、比較的参加率が高い4種目に限って、年間活動回数の分布をみると、「遊園地」、「動物園、植物園、水族館、博物館」並びに「外食」は子供が多いほど回数が減少する傾向を示している。特に「遊園地」はその傾向が顕著であり、「1回」のみの割合が「子供2人」では45.8%と5割を下回っているのに対して「3人以上」では7割を占める。

4. 「外食」の費用は、子供が多いほど低額と高額に二極化する（p5 参照）

年間費用（会費等）についても年間活動回数と同様に子供の人数別の集計をおこなった。ただし、ここでいう費用とは、参加者自身が年間にかかったと認識しているものの合計であり、個人での参加の費用なども含まれる。結果を見ると、「外食」では、人数が多いほど「1万円未満」の割合も「10万円以上」の割合もどちらも高まるという二極化の傾向があることが分かる。これには、活動回数の多寡が強く関わっている。

（※）本資料における各用語の意味は以下のとおり。

- ・自由時間のあり方・・・「あなたにとって自由時間は現在どのような時間ですか」という質問に対する9つの選択肢による回答結果（選択肢の表現等についてはP2を参照）。
- ・参加率・・・ある余暇活動を1年間に1回以上おこなった人の割合。
- ・（参加）希望率・・・ある余暇活動を将来やってみたい、あるいは今後も続けたいとする人（回答者）の割合。
- ・潜在需要・・・（参加）希望率から参加率を引いた値。
- ・年間費用（会費等）・・・年間活動費用のうち、交通費、入場料、飲食などの費用の合計（ただし外食は交通費を除く）。

<余暇活動調査の仕様> ■調査方法：インターネット調査

■調査時期：2015年1月

■調査対象：全国15歳～79歳男女（分析の対象は20～49才の男女）

■有効回収数：3325（分析の対象はそのうち1551）

【お問合せ先】 公益財団法人日本生産性本部 余暇創研 （担当）志村、高橋

Tel : 03-3409-1125 / Fax : 03-3409-1187 / E-Mail : yoka@jpc-net.jp

レジャー白書→HP : <http://www.jpc-net.jp/leisure/index.html>

レジャー白書 日本生産性本部 検索

子供の有無別・人数別の自由時間のあり方

1. 子供3人以上で「家族と過ごすため」の選択率は5割にとどまる

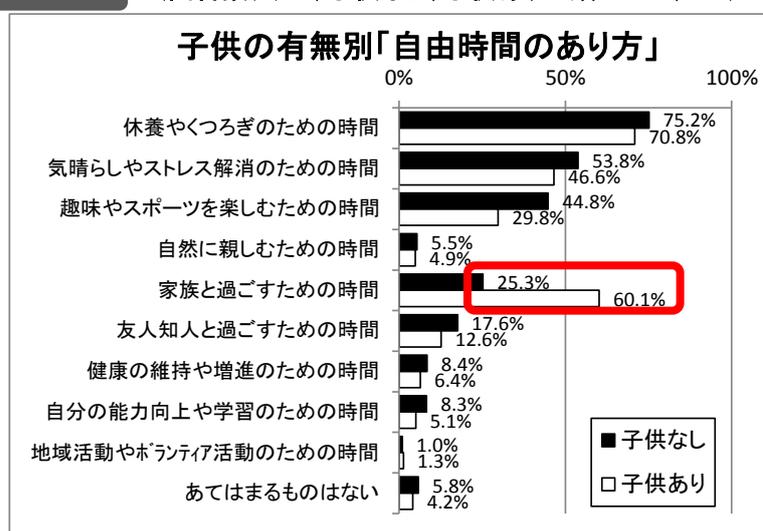
はじめに“自由時間のあり方”（※2）について尋ねた結果を確認する。20～40代において子供がいる人の「家族と過ごすため」の選択率は6割で、子供がいない人（約25%）を大きく上回るが、子供の人数別にみると、「3人以上」でその割合は5割にとどまっている。その反面「3人以上」は「趣味やスポーツを楽しむため」の選択率で「1人」や「2人」を5ポイント超上回っている。3人以上子供を持つ人は、子育てに慣れていることもあり、自分の時間を比較的作りやすいのかもしれない。

また、「子供なし」は多くの選択肢で「子供あり」の値を上回っているが、特に大きく上回っているのは「趣味やスポーツを楽しむため」である。これは、子供がいる人が趣味やスポーツを楽しむのを控える傾向があるためと考えられる。

図表1 子供の有無別・人数別の「自由時間のあり方」

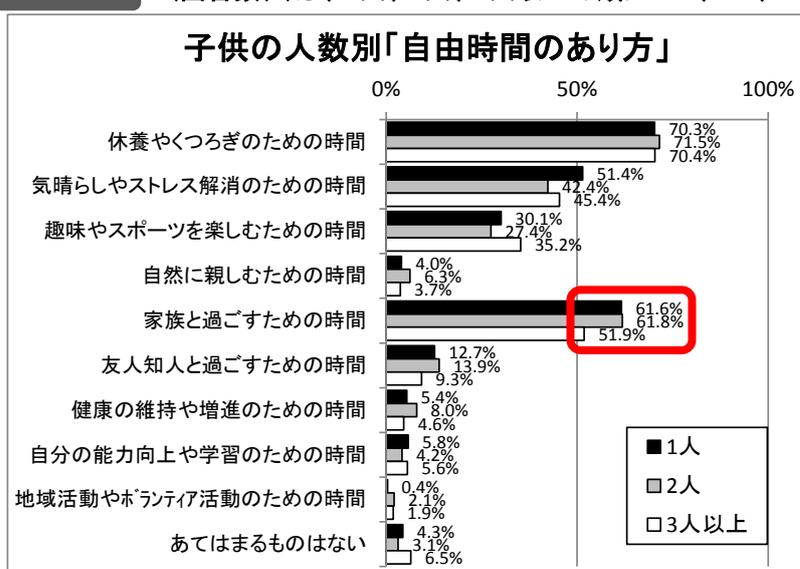
子供の有無別

（回答数(N)は、子供なし、子供ありの順に 879、672）



子供の人数別

（回答数(N)は、1人、2人、3人以上の順に 276、288、108）



（※1）集計の対象は20～40代の男女全1551人（以下の分析でも同じ）。

（※2）“自由時間のあり方”とは、「あなたにとって自由時間は現在どのような時間ですか」という質問に対する上の図表にある9つの選択肢による回答の結果を意味する。回答は、いくつでも選択可であるが、「該当なし」も認めている。

子供の人数別参加率・潜在需要

2. 子供の人数が多いほど参加率が高まる種目は「スキー」「遊園地」「釣り」

次に、“時間・費用等の負担が比較的大きい種目”（※1）を取り上げて、参加率と潜在需要を子供の人数別にみでみる。ただし、ここでいう“参加”とは、必ずしも子供や家族と共に参加したことを意味するわけではなく、個人での参加や友人との参加についても含まれている（これは以降の分析においても同じ）。参加率は、全体的に子供が多いほど低下する傾向があるが、「スキー」、「遊園地」、「釣り」はその逆の傾向にあり、「3人以上」が最も高い値を示している。ただ、その反面、「遊園地」では、子供が多いほど潜在需要が低下する傾向が表れている。一方「美術鑑賞」は、子供が多いほど参加率は低下するが、潜在需要は高まる。

また、「子供なし」と「1人」の参加率を比べると、多くの種目で「1人」が「子供なし」を上回っているが、1回あたりの費用の高い「クルージング（客船による）」や「海外旅行」では「子供なし」の方が明らかに高く、自由に使えるお金や時間の差が反映された結果と考えられる。

図表2 子供の人数別の参加率・潜在需要（単位：％）

No.	種目	参加率				潜在需要(希望率-参加率)			
		子供なし	1人	2人	3人以上	子供なし	1人	2人	3人以上
1	スキー	3.2	5.8	6.3	9.3	8.0	4.3	5.9	3.7
2	クルージング(客船による)	4.4	2.2	2.1	1.9	20.6	18.5	24.7	19.4
3	ゴルフ(コース)	3.8	7.2	5.6	3.7	4.0	2.9	3.8	0.0
4	遊園地	19.2	36.2	41.7	42.6	20.1	22.5	16.7	11.1
5	登山	7.6	7.2	5.2	2.8	12.1	13.8	12.5	13.9
6	海水浴	8.1	17.8	20.1	16.7	11.4	17.8	14.6	15.7
7	ドライブ	42.5	52.5	57.6	48.1	4.8	0.7	▲3.1	▲1.9
8	釣り	5.6	7.2	7.6	11.1	3.6	1.4	2.1	1.9
9	動物園、植物園、水族館、博物館	27.9	49.6	51.0	41.7	17.7	10.5	4.9	13.9
10	温浴施設(健康ランド、クアハウス、スーパー銭湯等)	31.1	35.1	37.8	32.4	14.6	19.9	21.2	19.4
11	音楽会、コンサートなど	23.7	22.1	17.0	8.3	8.2	8.3	13.9	10.2
12	スポーツ観戦(テレビは除く)	17.1	17.8	13.5	13.9	8.1	4.7	11.5	9.3
13	催し物、博覧会	13.2	21.0	18.4	12.0	15.5	13.8	12.8	14.8
14	美術鑑賞(テレビは除く)	11.1	9.8	7.6	4.6	4.6	2.2	3.8	6.5
15	外食(日常的なものは除く)	47.2	50.7	46.2	43.5	▲4.9	▲11.2	▲4.5	▲7.4
16	サウナ	11.1	13.0	11.8	7.4	0.7	2.2	0.3	2.8
17	テニス	4.7	5.8	2.4	3.7	4.9	6.9	8.0	4.6
18	写真の制作	15.8	22.5	11.8	5.6	0.2	▲8.0	▲1.0	1.9
19	観劇(テレビは除く)	10.5	8.0	9.7	5.6	10.5	9.8	10.4	7.4
20	国内観光旅行(避暑、避寒、温泉など)	47.2	55.4	52.1	50.9	20.0	20.3	29.5	13.9
21	海外旅行	13.3	10.9	5.6	4.6	29.9	41.3	48.3	31.5

(※1)ここでいう“時間・費用等の負担が比較的大きい種目”とは、「レジャー白書 2015」P143 図表 3-13『宿泊を伴う旅行実施率上位種目』（イ）『全体』で1～18位（10%超）の19種目に「国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）」と「海外旅行」を加えた全21種目。

(※2)赤字は子供の人数が多いほど高まる傾向を、青字はその逆の傾向を示す。

(※3)「子供なし」から「3人以上」までの回答数(N)は、P2の図表1と同じ。

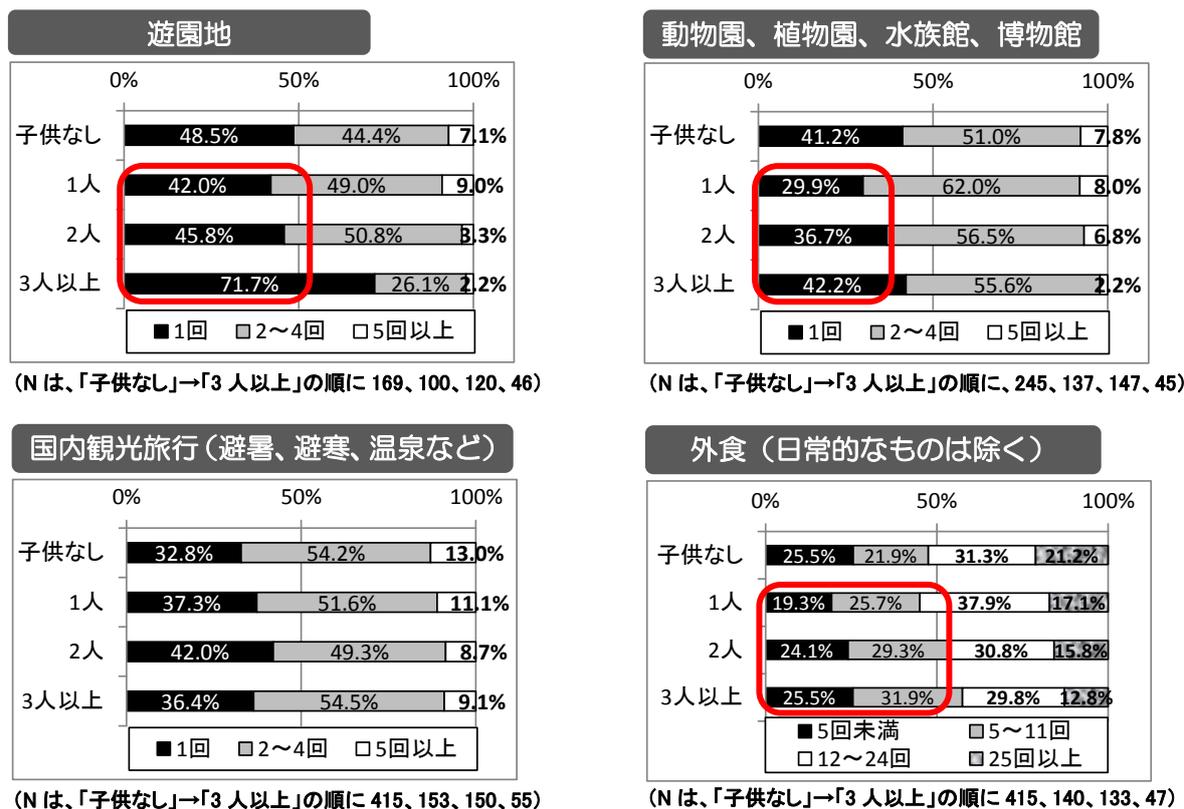
子供の人数別年間活動回数

3. 「遊園地」「動物園等」「外食」の活動回数は子供が多いほど減少

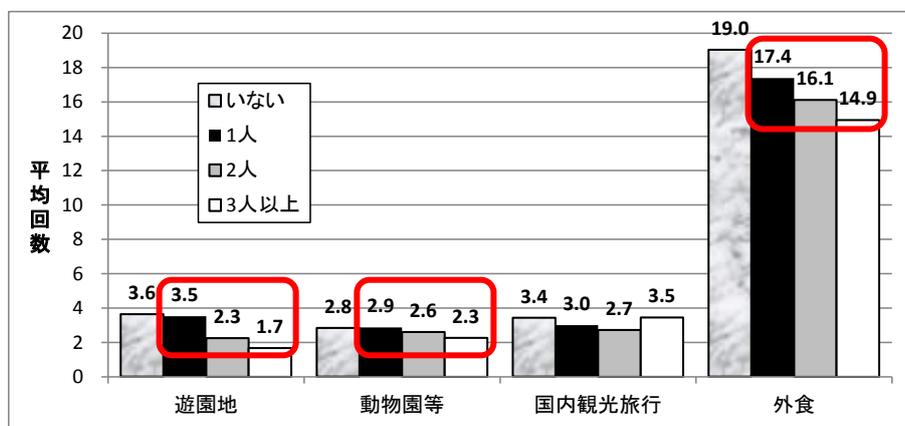
続いてP3で取り上げた21種目の中で比較的参加率が高い4種目に限って、年間活動回数の分布を見てみると、「遊園地」、「動物園、植物園、水族館、博物館」並びに「外食」は子供が多いほど回数が減少する傾向を示している。特に「遊園地」はその傾向が顕著であり、「1回」のみの割合が「2人」では45.8%と5割を下回っているのに対して「3人以上」では7割を占める。

また、「レジャー白書」掲載の値と同様の方法で「年間平均活動回数」を子供の人数別に算出すると、その3つの種目で子供が多いほど平均回数が減少することを確認出来る（図表4を参照）。

図表3 子供の人数別の「年間活動回数」の分布



図表4 子供の人数別の「年間平均活動回数」 (単位：回)



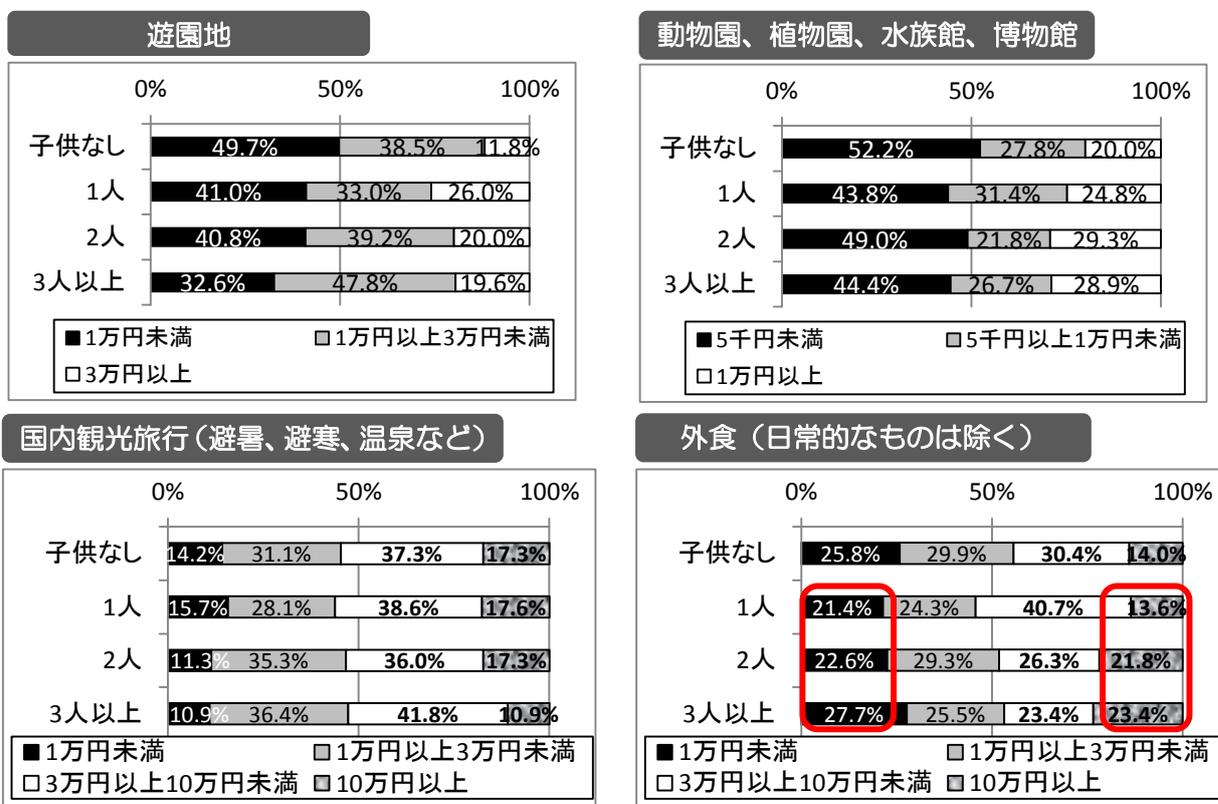
※上の4種目は、P3の全21種目のうち参加率が比較的高い（回数の回答が比較的多い）もので、「レジャー白書2015」に掲載されている全107種目の中でも参加率上位22に入る。

子供の人数別年間費用（会費等）

4. 「外食」の費用は、子供が多いほど低額と高額に二極化する

“年間費用（会費等）”（※1）についても年間活動回数と同様に子供の人数別の集計をおこなってみる。ただし、ここでいう費用とは、参加者自身が年間にかかったと認識しているものの合計であり、個人での参加の費用なども含まれる。図表5を見ると、「外食（日常的なものは除く）」では、人数が多いほど「1万円未満」の割合も「10万円以上」の割合もどちらも高まる傾向があることがわかる。加えて、「外食（日常的なものは除く）」における年間費用と年間活動回数の関係を表すクロス集計の結果（図表6）を見ると、「子供3人以上」の参加者が、外食の回数を少なくして費用を抑えるタイプと、そのような意識があまりなく費用が膨らむタイプに分かれる傾向があることが確認できる。この傾向は、「1人」や「2人」と比べて顕著である。

図表5 子供の人数別の「年間費用（会費等）」の分布



図表6 外食における子供の人数別の「年間活動回数」と「年間費用」のクロス集計（単位：％）

回数／費用	子供1人				子供2人				子供3人以上			
	1万円未満	1万円以上3万円未満	3万円以上10万円未満	10万円以上	1万円未満	1万円以上3万円未満	3万円以上10万円未満	10万円以上	1万円未満	1万円以上3万円未満	3万円以上10万円未満	10万円以上
5回未満	37.0	29.6	29.6	3.7	18.8	71.9	9.4	0.0	50.0	41.7	8.3	0.0
5～11回	19.4	38.9	38.9	2.8	33.3	17.9	30.8	17.9	20.0	40.0	40.0	0.0
12～24回	18.9	18.9	50.9	11.3	17.1	17.1	39.0	26.8	21.4	7.1	21.4	50.0
25回以上	12.5	8.3	33.3	45.8	19.0	9.5	19.0	52.4	16.7	0.0	16.7	66.7

（※1）“年間費用（会費等）”とは、交通費、入場料、飲食などの年間の費用の合計を意味する。ただし、「外食（日常的なものは除く）」は交通費を含まない。また、その費用は子供との参加には限らない。

（※2）図表6では、子供の人数別に回数の行ごとに合計が100%になるように集計している。

（※3）「子供なし」から「3人以上」までの回答数(N)は、P4の図表3と同じ。